

はたくぼにしいせき

## 畑久保西遺跡

(相模原市No.277 遺跡)

調査期間

20060701～20070228  
20071116～20071227  
20080501～20080715  
20091101～20101215  
20111016～20120115

所在地

相模原市緑区城山4丁目

時代

縄文  
(早期・前期・中期・後期)  
古墳～奈良・平安  
中・近世



作成日:20111207 更新:20120426

### 概要

畑久保西遺跡は、相模原市緑区城山4丁目地先に所在する遺跡で、相模川左岸に展開する標高 154～157mほどの河岸段丘上に立地しています。「一般国道 468 号(さがみ縦貫道路)建設事業」に先立ち、国土交通省関東地方整備局相模国道事務所の依頼を受けた公益財団法人かながわ考古学財団が、平成 18 年度から平成 22 年度にかけて「本線部分」「植樹帯部分」の調査を、平成 23 年度は、振替道路の完成によってようやく調査の実施が可能になった「市道部分」の調査を実施しました。本遺跡は、これまで実施した発掘調査によって、中・近世、古墳時代～奈良・平安時代、縄文時代の集落が展開する遺跡であることが明らかになっています。

昨年度調査を実施した「市道部分」の調査区では、過去の5次に亘る調査では発見できなかった平安時代の竪穴住居址を確認することができました。その他、陥穴状土坑も発見されています。また、発見された遺構数や遺物量が卓越する縄文時代は、本遺跡の中心的な時代といえるでしょう。写真は、昨年度の調査で発見された、集石、陥穴状土坑と縄文土器の出土している状況です。



▲ J18 号集石全景



▲ J51 号陥穴状土坑(南から)



▲ 縄文上部面遺物出土状況(西から)